

■高校野球のケーススタディー（第41回）■



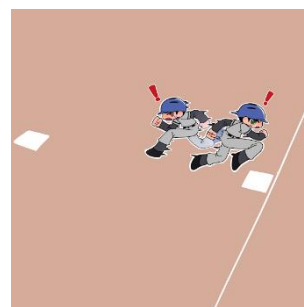
一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

高校野球における公式試合や練習試合の中で生じたプレイの中で、“こんなプレイ、ルールではどうなるの？”といった疑問について、ルールの側面から解説します。

○走者の追い越しが発生したケース

無死走者1塁、ライトへ飛球があがりました。右翼手は前進しボールをグラブに収めるも落球し、一塁審判員は「ノーキャッチ」のジェスチャーをしました。この時、打者走者が、捕球されると思いついてきた1塁走者を追い越しました。二塁審判はすかさず「ザッツ・パッシング」と発し打者走者にアウトを宣告しました。1塁走者はノーキャッチのジェスチャーを見て、2塁へ進塁し、右翼手はそれを見て2塁へ送球しましたが、遊撃手はフォースプレイのような姿勢で捕球をしたため、1塁走者はセーフの判定となりました。

今回のケースを振り返り、追い越しをした際にアウトとなる対象についてルールを振り返るとともに、追い越しの際の審判のジャッジについて、守備側はどういう対応をしたらよかったのかを解説したいと思います。



まず追い越しした際のアウトの対象について説明します。公認野球規則 5.09(b)(9)では、「後位の走者がアウトとなっていない前位の走者に先んじた場合。(後位の走者がアウトとなる)」と記載されています。このため、今回のケースでは一塁走者を追い越した打者走者がアウトの宣告を受けます。その他に、追い越しで知っておくべきことが3点あります。

1つ目は、追い越しアウトに関しては、ボールデッドにはならずボールインプレイであるということです。すなわち、今回のケースのように次のプレイが発生することになります。

2つ目は、前位の走者が逆走し後位の走者と入れ替わるような場合、前位の走者によって追い越しが発生するケースにおいても、常に後位の走者にアウトが宣告されます。

3つ目は、安全進塁権を与えられた走者がボールデッド中に前位の走者を追い越した場合（例・本塁打のとき等）にも適用されるということです。

次に、追い越しが発生した場合の審判員のジャッジについて説明します。これは、高校野球審判の手引き（ジェスチャーの統一[20. 走者の追い越しが発生した場合]p. 123）に記載されています。

アウトを宣告する走者（後位の走者）に向かってアウトのジェスチャーを行い「ザッツ・パッシング」（“That’ s passing! He is out!”）を宣告するとあります。普段、聞き慣れないワードだと思いますので、ぜひこの機会に知っておいて下さい。



また、守備側がどういう対応をすればよかったのでしょうか。今回、野手はフォースアウトに準じたプレイをしました。フォースプレイとは「打者が走者となったために、塁上の走者が、規則によって、その塁の占有権を失ったことが原因となって生じるプレイである」とされています（**公認野球規則 定義 30**）。しかし、今回のケースでは、追い越しにより打者走者がアウトになったため、1 塁走者はフォースプレイの状態ではなくっており、アウトにするためにはタッグプレイが必要でした。

このように、追い越しはボールインプレイのため、次のプレイが生じます。正しくプレイをするためにも、追い越しのルールについて知っておくことが大切になります。また、審判員は、追い越しの判定を選手・観客にも確実に知らせるための工夫が必要です。大きな声・大きなジェスチャーはもちろんですが、判定を出すタイミングやジェスチャーの仕方などを考えてみましょう。

表題デザイン・イラスト協力：兵庫県立姫路工業高等学校デザイン科
表題デザイン：桂 楓杏さん（74 回生）
イラスト：田村 友佳 さん（2 年）西田 未羽 さん（2 年）